

【高校までは、何をすべきかは分かり切っており生徒の選択の余地はどれだけやるかだけだが、大学では、常道が常識化しておらず口承浮遊しているので学生の何をどれだけやるかの選択が投機的に成りがち。】

- ・何をどの程度出来る様に成れば良いのか学生に分かり難い。
- ・教科書・参考書の選択が難しい。
- ・高校までとは学習のルールが変わる。
 - ・厳密でない論理展開に対して寛容になる。
数学に属する事項の厳密主義的な証明は知らなくて良い場合が多い。
自分が用いた数学に対しての全責任を負う必要は無い。
 - ・要求されるのは「分かった」までで「解ける」は要求されない。
 - ・学習のルールで要求のレベルが下がった分と、もの自体が難しくなった分が、相殺して、困難の程度が人間サイズに成る。
 - ・要求されるからする、要求されないからしない、という態度を必ずしも私は奨励しているわけではない。
- ・大学初年次の内容に投入する学習努力を適度にセーブして、第2学年以降の学習内容に重点的に学習努力を投入すべき。